

◆病院図書室ネットワーク紹介◆

新潟県病院図書室協会について

安田 裕子

I. はじめに

新潟県病院図書室協会は、1987年に新潟県病院図書室研究会として13施設で設立されました。2010年に現在の名称に変更し、2017年4月現在22施設が会員です。会員相互の技術のレベルアップ、情報交換を目的とし、業務の向上・発展を目標に、研修会の開催、機関紙の発行などを行っています。

II. 活動内容

主な活動内容としては研修会開催、機関紙発行、所蔵雑誌合同目録作成、病院機能評価受審対策、統計調査、重複雑誌交換、図書室レイアウト集作成などです。

1. 研修会の開催

研修会は年2回開催しており、2017年6月の開催で54回を数えました。会場は会員施設の巡回と新潟大学医歯学図書館での共催です。会員施設での開催は見学会も兼ねていて、担当者の創意工夫を直接見ることができ参考になります。新潟大学での開催では、個々の参加者がインターネットに接続したパソコンを使用して、文献検索などの演習を行うので実

践的です。

主なテーマは基本的な図書室業務を中心に、パソコンを利用した管理業務、インターネットを利用した文献検索、患者図書室の運営などです。担当者は他職種との兼務や異動が多いので、基本業務に関する要望が多く、繰り返し行っています。毎回30名弱の参加者なので、全員参加のディスカッションなどで意見交換ができ、各施設の状況が分かりやすいです。

2. 機関紙「新潟県ホスピタルライブラリー」の発行

機関紙は年2回、研修会開催に合わせて発行しています。編集は会員が持ち回りで行っており、2017年6月現在61号を発行しています。内容は総会議事録や前回研修会報告の他に、毎回テーマを決めた会員からの投稿原稿を掲載しています。学術的な内容があまり含まれておらず、今後の検討課題です(図1)。

3. その他の活動

所蔵雑誌合同目録は、冊子体で過去3回作成しました。その後はExcelファイルで作成したものを、メールで回覧して更新していました。現在はそのファイルを、クラウドを利用して随時更新しています(図2)。

統計調査は毎年行っています。どの施設がどのような支援ツールや、パッケージ型電子

YASUDA Yuko

信楽園病院 図書室

tosyo@shinrakuen.com

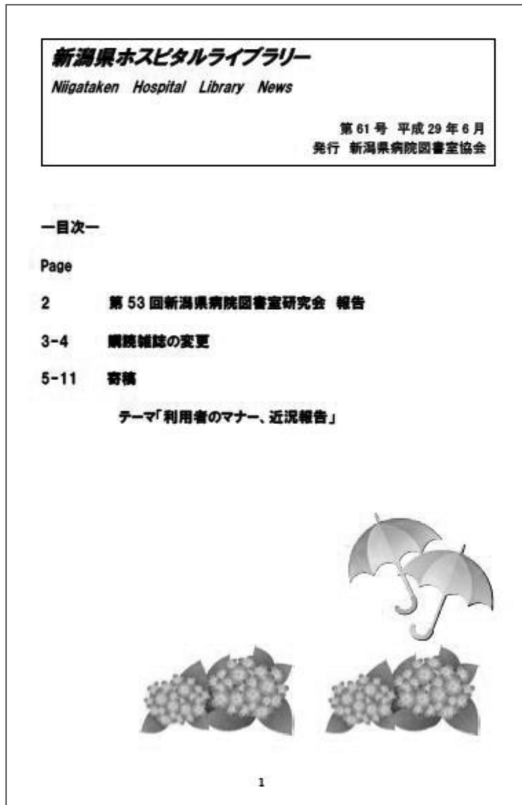


図1 機関紙「新潟県ホスピタルライブラリー」



図2 クラウド管理による所蔵雑誌合同目録

ジャーナルを導入しているかが分かるので、相互貸借にも活用できます。また新しく導入を検討する際には、すでに導入している施設の具体的な利用状況なども調べやすいです。

病院機能評価を受審した施設から、準備資料や面接時の質問内容などを報告書にまとめてもらい、ファイルしたものを年1回配信しています。また各施設の図書室レイアウトもまとめて、年1回配信しています(図3)。重複雑誌リストも作成しており、更新ごとにクラウドで管理しています。

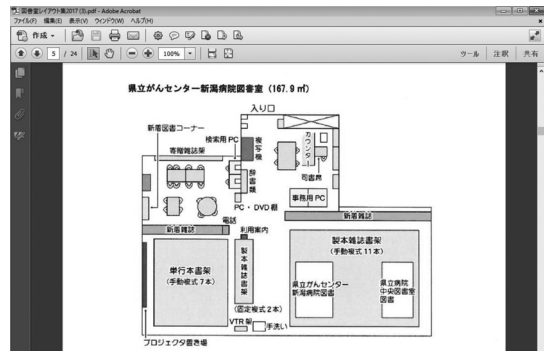


図3 図書室レイアウト集

Ⅲ. 今後の課題

協会には基本事業を継続しつつ、担当者や病院管理者が希望する図書室作りのための、新しい活動が求められています。より多くの施設に参加してもらい、協会の活性化を図るために、活動内容を対外的に情報発信していく必要もあります。病院組織の中で図書室の存在意義を高めるため、個々の担当者がレベルアップを図り、図書室を病院全体にアピールできればと考えています。

Ⅳ. おわりに

各施設の限られた情報資源を協会で活用し合い、担当者のスキルアップをめざして、図書室機能の維持・向上に努めたいと思います。